

医療従事者向け

その検体、本当に 本人のものでしょうか？

病理検体の取り違えを防ぐ**10**の鉄則

日本病理学会『病理検体取扱いマニュアル』より


医知創造ラボ



取り違えは "検査室の中"で終わらない



別患者の検体



誤った診断



誤った手術・抗がん剤・がん告知

病理診断は治療方針を決める"最終判断"

取り違えは『稀』ではない

**4.3 件／
1,000 検体**

検体識別エラー
(Makary 2007)

0.25%

ラベル誤り=全症例。
その73%が“別患者”
(Layfield 2010)

69%

ラベル誤りは
切り出し室で発生
(Layfield 2010)

取り違えは『線』の問題



多くの工程は今も"手作業"。一か所の照合だけでは防げない

臨床側で最も取り違えの頻度が高い工程



本人にフルネームを名乗ってもらう（呼応）



生年月日・リストバンドで照合



開いている電子カルテが本人か確認



エラーは 手術室 0.346% < 外来 0.512%

ホットスポット② 受付（到着確認・発番）

2

✓ 推奨

- ✓ 搬送者とその場で1検体ずつ確認



- ✓ 過不足は受付せず担当医へ連絡



- ✓ カセット移し替えは2名以上で



✗ 避ける

- ✗ 疑問に思った点をそのままに作業を進める



69%

ラベル誤りが切り出し室で発生



3

✓ 推奨

- ✓ 病理医＋臨床検査技師の2名で・1検体ずつ



- ✓ 別患者の前に器具を洗浄（コンタミ防止）



✗ 避ける

複数の異なる患者の検体を同時に扱う

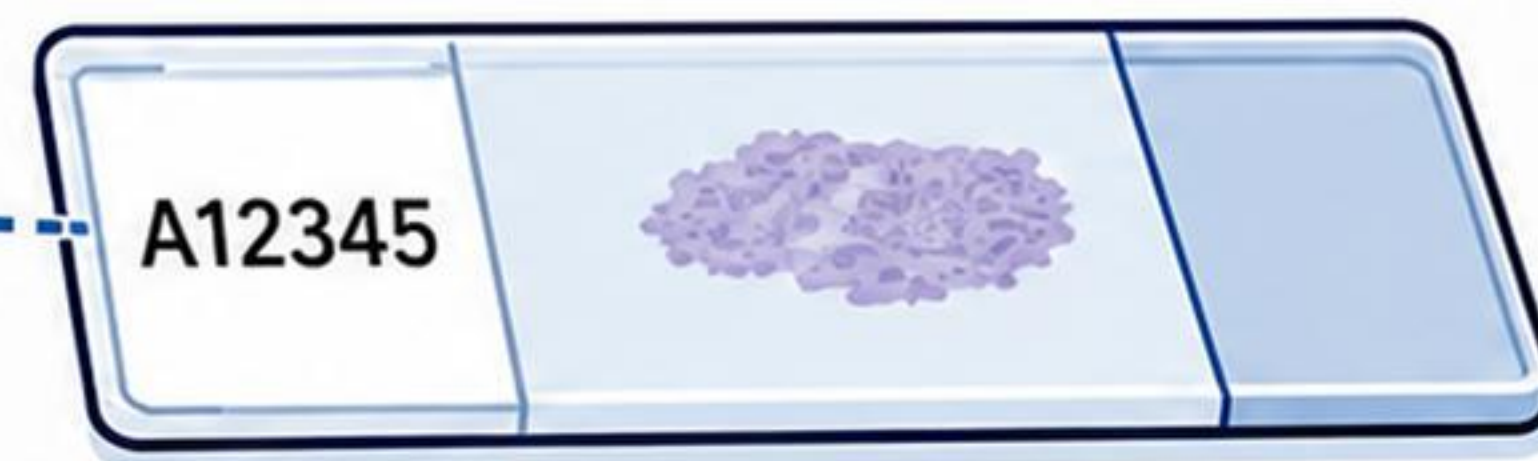


スライド番号 = カセット番号 を必ず照合

4



カセット番号



スライド番号

✓ 推奨

- ✓ 1ブロックずつ・貼付完了まで/
薄切～貼付は1名
- ✓ 手元には1ブロック分のスライドのみ



✗ 避ける

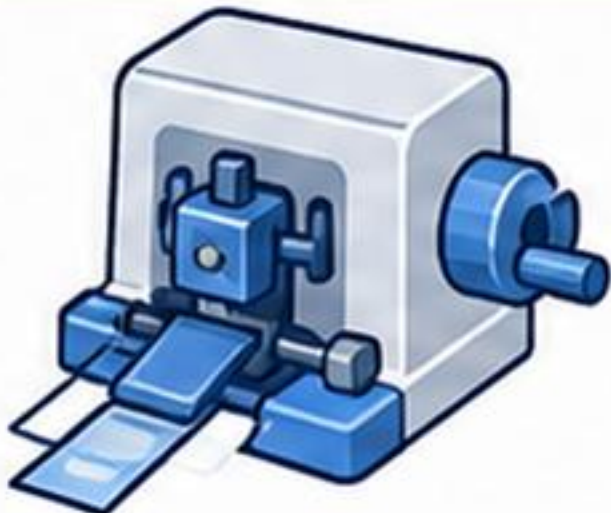
- ✗ 複数ブロックを同時に
水に浮かべて
まとめて拾う



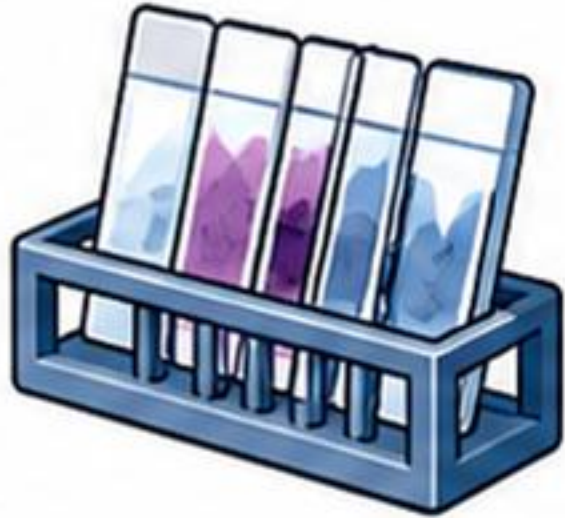
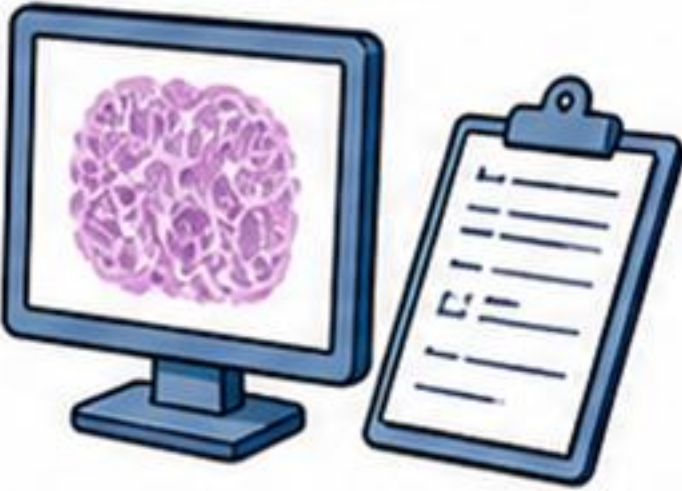
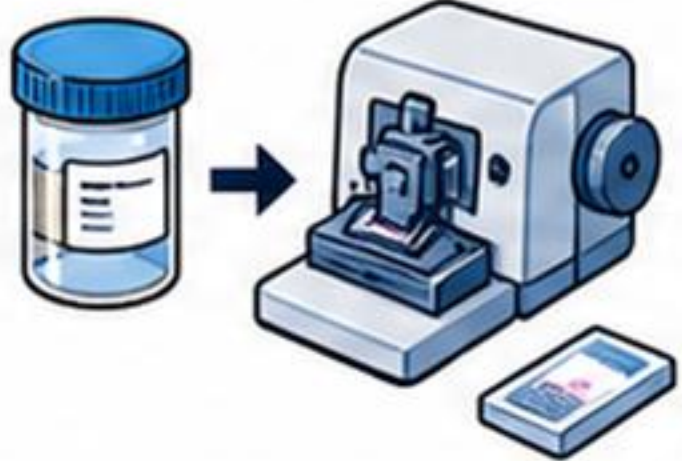
✓ 推奨 / ✗ 避けるべき手技（採取・提出・受付）

		推奨	避けるべき手技
採取		本体にラベル・ 入れる前に貼る	 仮貼り・蓋に貼る・後貼り
提出 (手術)		複数なら複数容器に 分けて提出	 同じガーゼに包んで提出
受付		1検体ずつ・ カセット移し替えは2名	 整合性を確認しない

✓ 推奨 / ✗ 避けるべき手技（切り出し～薄切）

		推奨	避けるべき手技
切り出し		✓ 2名・1検体ずつ	✗ 複数患者を同時に扱う
包埋		✓ 1カセットずつ・ピンセット焼灼	✗ 途中で席を離れる
薄切		✓ 番号照合・手元1ブロック	✗ 複数ブロックをまとめて拾う

✓ 推奨 / ✗ 避けるべき手技（染色・診断・術中迅速）

		推奨	避けるべき手技
染色		✓ 2名で指差し声出し照合	✗ 確認せず病理医へ
診断		✓ 申込書とスライドを1対1照合	✗ 複数症例を混在
術中迅速		✓ 1症例ずつ・全例感染症疑い	✗ ピンセット未交換

役割別・あなたが守ること



臨床医

フルネーム確認・
1検体1容器・申込書記載



看護師

ラベルは本体に本貼り・
後貼りしない



臨床検査技師

受付2名・番号照合・
署名押印



病理医

1対1照合・複数症例を
混在させない・権限管理





ダブルチェックを『形骸化』させない



1検体ずつ・複数患者を混ぜない



声出し・指差して独立に確認

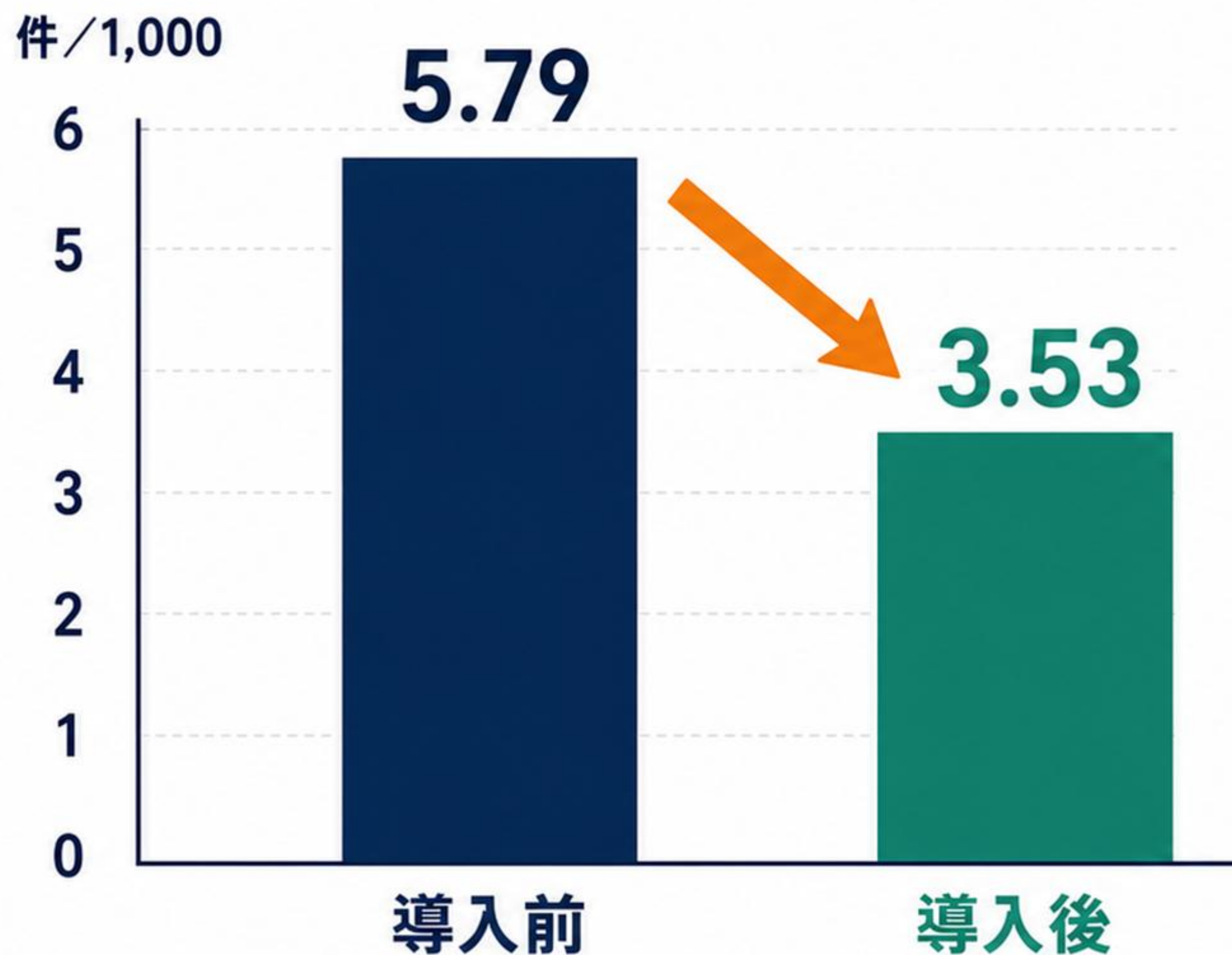


署名・押印で責任を残す



疑問はその場で止める

『手順を決めて守る』だけで減る



ラベルイベント
5.79 → 3.53
件/1,000

標準化プロトコル導入後



特別な機器なしでも有意に減少

バーコード・RFIDは補助、土台は手順



24 → 6件

RFIDトラッキングで
取り違え・紛失 **75%減**



約 **1/5**

電子患者照合で
容器取り違え



採取・切り出し・包埋は今も手作業で残る

取り違えゼロへ5つの鉄則

1 採取時に
本人が
フルネームを
名乗る



2 ラベルは
本体に・
入れる前に



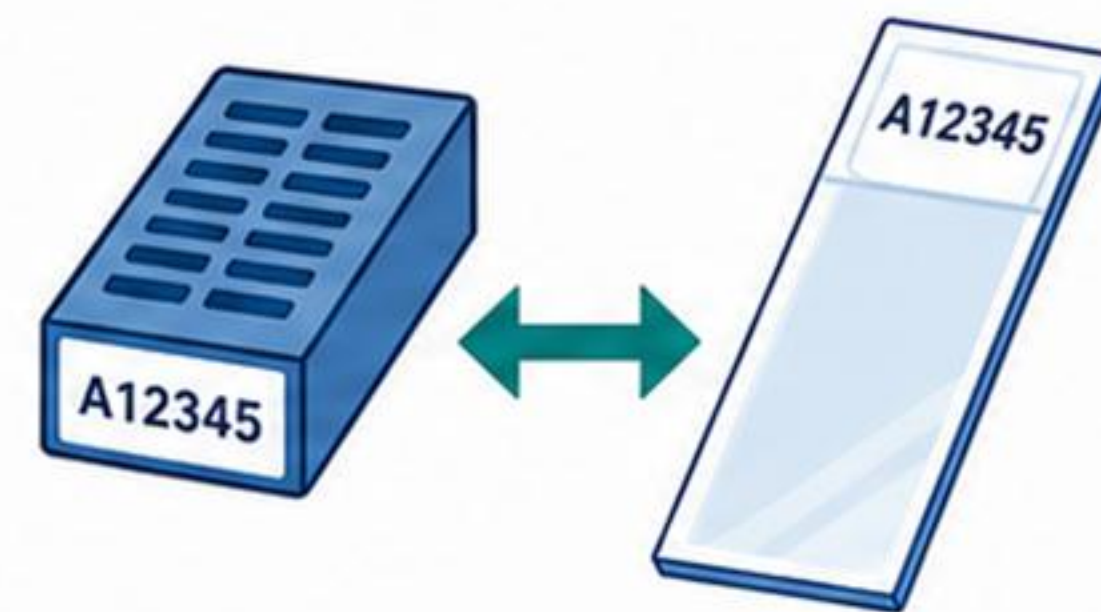
3 1検体ずつ・
複数患者を
混ぜない



4 2名で
声出し・指差し・署名



5 番号照合
(薄切・診断)



参考文献

1. 日本病理学会 病理検体取扱いマニュアル(2016)
2. 日本医療機能評価機構 医療事故情報収集等事業
3. Makary 2007 Surgery
4. Layfield 2010 Am J Clin Pathol
5. Norgan 2020 Arch Pathol Lab Med

